



「スマホっぽんたんくん」

①

(注意)

※この紙芝居に出てくる症状は、あくまでスマートフォンの長時間視聴により起こりうる症状を想定しており、特定の疾患を想定したものではありません。



②

ぼんたくんは そと あそ 外で遊ぶのが だいす 大好き。今日も公園で げんき あそ 元気に遊んでいます。

ぼんた

「お母さん かあ、みてみてー、ここだよー」

お母さん かあ

「……」

ぼんた

「ねえ……お母さん かあ……こっちみてよー」



③

お母^{かあ}さんは スマート^{すまーと}フォン^{ふん}ばかり^み見ていて 話^{はなし}を聞^きいてくれません。

ぼんた

「お母^{かあ}さんは スマート^{すまーと}フォン^{ふん}ばかり^み見て、ちつともぼくの話^{はなし}を聞^きいてくれないな。
つまんないな。いつも お母^{かあ}さんが見^みている ”スマート^{すまーと}フォン^{ふん}“って そんなに
おもしろいのかな？ ぼくも見^みてみたいな。」

ぼんたくんは スマート^{すまーと}フォン^{ふん}を見^みてみたくなりました。



④

ある日 ひ お母さん かあ が ご飯 はん を 作 つく っている時 とき に (お母さん かあ から) スマートフォン すまーとふおん を
見 み せてもらいました。

ぼんた

「うわー、これおもしろいー!」

「わー、いろいろな写真 しゃしん が 出 で てくるー テレビ てれび も 見 み られるー」

ぼんたくんは スマートフォン すまーとふおん が 大 だい 好き す になりました。



⑤

そんなある日…

お母さん

「ぼんたくお風呂に入るわよ」

ぼんた

「…」

お母さん

「ぼんた！聞いているの？お風呂の時間よ。」

ぼんたくんはスマートフォンばかり見ていてお母さんの話を聞いていません。
しばらくして…

お母さん

「ぼんたく、もう寝る時間よ。いつまでスマートフォンを見ているの。」

もうやめなさい！

ぼんた

「いやだ〜！まだスマートフォン見たい！」

お母さん

「もう寝なさい！」

ぼんた

「いやだ〜！あと、ちょっとだけ。お母さん、あと少し見たら

ちや〜んと寝るから〜お願い！」

ぼんたくんの寝る時間は毎日どんどん遅くなっていきました。



⑥

ある日^ひ ぽんたくんは 夢^{ゆめ}を見^みました。
夢^{ゆめ}の中^{なか}でも ずつとスマートフォン^{すまーとふおん}を見^みています。

ぽんた

「うわー、このユーチューブ^{ゆーちゆうぶ} おもしろい!!
うわ、すごい!! うわ、すごい、このキラキラ^{きらきら}!!」

次^{つぎ}から次^{つぎ}に おもしろい動画^{どうが}を見^みることができ ぽんたくんは スマートフォン^{すまーとふおん}を
手放^{てばなす}すことができません。

ずつとずつと 見^みていました…。

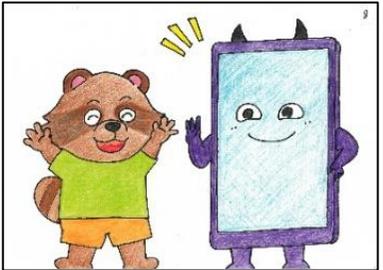


⑦

すると…(少しの間)

スマートフォンがみるみるうちに大きくなり…

そしてぽんたくんに向かって突然話しました。



スマートフォン悪魔

「やあ、ぼんたくん、いつも私を見てくれてありがとう。

毎日毎日 長い時間 私を見てくれてとっても嬉しいよ。

お母さんの話よりも 私の話をよく聞いてくれるね……。ははは……。

すごく嬉しいよ はははは……」

ぼんた

「そうだよ、ぼくはスマートフォンが 大大大好きなんだ！

だってスマートフォンはなんでも ぼくの見たいものを

すぐに 見せてくれるから！

だからずーっと 見ているんだよ。」

スマートフォン悪魔

「そうかあ、それは嬉しいな……。はははは。」

ぼんたくんはスマートフォンが 喜んでくれていることに

少し 嬉しくなりました。

しかしその正体はスマートフォン悪魔だったのです。



⑨

スマートフォン悪魔

「(不気味な感じで)ねえねえ、ぼんたくん こっちの スマートフォンの世界は

すごいぞ! 今より もっと たくさん スマートフォンが 見られるぞ!

終わりの時間も 決まっていない。約束なんて なんにもないぞ。

ユーチューブを 見たいならずと 見られるんだぞ! どうだい、こっちの

世界に 来るかい?」

ぼんた

「ええー、いいなあー!! そうしようかな…。」

スマートフォン悪魔

「どうだい?? 来るかい? 来たいだろ??」

ぼんた

「うん! 行こうかな??」

だけど しばらくして ぼんたくんは 何かに 気が付きました。

ぼんた

「ねえ、君はなんだか 元気がないように見えるよ。大丈夫??」

よく見ると 目が赤いよ。それに ぼくと話していても なんだか

違うところを見ていて、ぼくの顔を ちっとも見っていないよ。

「どこを見て お話しているの??」

スマートフォン悪魔

「そうかい?? こっちの世界では 私の姿が普通なんだよ。なんにも変ではな

いぞ。ぼんたくんのほうが とても変に見えるぞ。」

ぼんた

(絵を抜きながら)「えー? そうかな??」



すまーとふおん 悪魔

「ほらほら…、ぼんたくん 自分の顔を この鏡で見てください…」

すっかりわたしに似てきたぞ。もう スマートフォンの世界の人になってきているぞ。

なあ、このまま仲よくしよう、そしてこっちの世界に ずっと住んでいいぞ。」

ぼんた

「ええ？ ぼく？ きみに似てきているっ？？」

ぼんたくんは 鏡を見て びっくり！！！！

ぼんた

「ひょえー、同じ顔になっている！！ 目が赤い！！」

すまーとふおん 悪魔

「ははははは…もう 君は スマートフォンを手放せなくなってきただろう？

スマートフォンばかり見ていると 何も考えられなくなるし、何も覚えられなくなるんだぞ。友達なんかより、僕とだけ遊ぶ方が 楽しいぞ、いいだろう？」

ぼんた

「いやだよー ぼくは 色々な遊びがしたいし、友達とも遊びたいんだよー。

うわー、なんだか頭がくらくらしてきた… 頭が痛いよー お母さん

頭が痛いよー お母さん お母さん…」



お母さん

「(優しく)起こしている感じで)ぼんた ぼんた! 大丈夫? また、

スマートフォンを見ながら ソファで寝ちゃったのね。もうお風呂の時間よ。

明日は散歩に行くから 早く寝て 早く起きて 保育園に行く用意をするって
言っていたじゃない。」

ぼんた

「あ、そうか……。夢か……。怖かった……。」

ぼんたくんは 怖い怖い 夢を見ていたのです……。

ぼんた

「お母さん ぼく スマートフォンばかり見るのは 止めるよ……。」



お母さん

「あら……そう？？どうかしたの？？」

ぼんた

「あのね……スマートフォンばかり見ていると、目が赤くなるし、頭が痛くなるし、元気がなくなるんだよ。それに、色々なことを考えられなくなったり、覚えられなくなったりするってスマートフォン悪魔が言ってた。そんなの嫌だ！」

お母さん

「怖い夢を見たのね。そうね……お母さんもスマートフォンばかり見ないで、ぼんたのお話を顔を見てちゃんと言わね。」

「そうだ、スマートフォンを使うときの『おやくそく』を一緒に考えるのはどうかしら？」

「そうしてぼんたくんとお母さんは二人でお風呂に入りスマートフォンを使うときの『おやくそく』を一緒に考えました。」



ぼんた

「ごはんのときは、スマートフォンはおやすみにする。見る時間を決める！」

お母さん

「そうね、他には、一緒にお話をしたり、これからも外で遊んだりすることも大事にしようね。」

スマートフォンは とても便利で 楽しい道具です。

でも 大切なのは 『どう使うか』 です。

おうちの人と一緒に 使い方を考えて 楽しく使えるといいですね。

おしまい

※スマートフォンについて、子どもたちと一緒に考えてみましょう。